

福島区歴史研究会 会報

第十六号

2023. 2

目次

「田辺聖子特集」

「芋たこなんきん」再放送を視聴して・・・西田康江

2

堂島大橋と田辺聖子・・・多田一夫

4

聴講記録 田辺聖子「十八歳の日記の記録」

6

・・・藤 三郎

6

私記「田辺聖子文学館」訪問・・・田野 登

9

「田辺聖子生誕地碑建立への想い」(パンフレット)

11

田辺聖子「十八歳の日の記録」新聞取材・・・荻田善彦

15

地図から消された中央卸売市場

―戦事体制下の情報統制―・・・西村美紀子

15

〈トピック①〉 春日神社の新しい狛犬

17

鷺洲にかかつていた親柱石碑 3

17

―親柱移設と銘板完成―・・・水谷浩一

17

コロナの中、三年ぶりの夏祭り

海老江八坂神社の夏祭りが盛大に・・・末廣 訂

18

二〇二二年の病歴反省経過・・・岡倉光男

21

メリヤス会館見学会報告・・・宮本隆正

22

大輪田泊(のち兵庫津)の歴史散歩・・・澤田耕作

23

「浪花百景」絵解き・謎解き

27

―二〇二二年第一回セミナー報告―・・・大垣禎秀

27

歴史遺産を地域に活かす―世界遺産「百舌鳥・古市

27

古墳群」遺跡・史跡の保存活用二〇二二年第二回

27

セミナー 報告・・・澤田耕作

28

総目次(創刊号～第十五号)

33

〈トピック②〉 堀江謙一さん、84歳で太平洋横断

35

2022年の事業

36

2022年の活動記録

36



「田辺聖子特集」

「芋たこなんきん」再放送を視聴して

西田康江

♪ひとりより ふたりで ホラ

思い出を 育てながら

向かい風の わけも聞かずに

目の前の扉を 開けよう

(主題歌「ひとりよりふたり」FAYRAYより)

子供の頃から小説家になりたいと夢見て、いつもお話を書き続けてきた作家田辺聖子さんの半生を、藤山直美主演で企画されたNHK連続テレビ小説「芋たこなんきん」が、一六年ぶりに二〇二二年三月から半年間再放送され、多くの人の朝を魅了した。女性の好きなものの代名詞と聞く「芋たこなんきん」の題名、作者とヒロイン役の名前を聞くだけで「面白そう。早く見たい」と思ったとおり、笑いどころが満載で、友人とのグループLINEでは早朝にも拘らず八人中六人が視聴、実に七五%の視聴率?!であった。

一般的にも高評価と聞く。

◆あらすじ

舞台は昭和四〇年代の大阪、金物商店に勤めながら小説家を志す三七歳独身の花岡町子は、ある日けんかの仲裁に入り「カモカのおっちゃん」こと開業医の徳永健次郎（國村隼）と出会う（カモカは噛んで

やろかの意）。

始めは「女が小説など上手くなっても仕方がない」という健二郎に「あなた、ちょっと待ちなさいよ!!」と町子。雲行きの怪しかった二人が、次第に意気投合していく。健次郎はバツイチの五人の子持ちで、両親や妹も同居の大家族だった。町子は周りの心配をよそに結婚し、お互いの人生を尊重しながら、家事や育児と文筆活動の両立にパワフルに励む。笑いあり涙ありで、その奮闘を描いた夫婦の物語。

◆終盤を迎えて

最も驚いたことは同居した子供たちに「おばちゃん」と呼ばせたと。子供たちのお母さんは亡くなったお母さん一人だけ、と子供達に寄り添った。

日々晩酌をしながらのお喋りは尽きず、二人にとつて至福の時だったろう。夫婦とは、親子とは、家族とは・・・結婚後、回想シーンをうまく織り交ぜて語り合う中にテーマが潜み、大切なことがそつと心に届いた。

母のハワイ旅行に町子は反対したが、父との思い出とわかるや「福島」の天神さんでお守りもらってきてん」と母に渡す。「まあ、わざわざ福島の天神さんまでお札をもらいに行ってくれたの?」と大喜びした母。

生まれ育った写真館も当時親しくした人々もここにはもういないけれど、彼女の原点である福島を大切に思う気持ちが伝わり嬉しく思った。少女役の山崎奈々演じるお転婆でおませで空想好きな町子が、

もし同じクラスにいたら、大の仲良しになったかも、と思う。

町子が鬼ごっこやドッチボールをして遊び、美しい夕焼けを見た向かいの紡績工場跡の広場は今も多くの子供たちが遊ぶ下福島公園。唯一無二の作家田辺聖子さんに思いを馳せ、また散歩に行ってみよう。結婚後は五人の子持ちとなった町子。運動会や逆上がりの参観日に仕事を終えるや全速力で駆けつけた。「そうそう私もいっぱい走ったな」こんな共通の思い出から生まれる一体感もこのドラマの面白さではないだろうか。

一六年前実写とCG（コンピュータグラフィックス）の合成により、市電や商店街等が巨大セットでリアルに再現された。NHK連続ドラマ初と知り技術担当の方々のご苦労にも気付かされた。

◆最後に

一般的に見たら結婚条件がかなり不利だったカモカのおっちゃん
の放った「僕と結婚したら面白い小説がいっぱい書けるよ」その言葉
どおり、町子こと聖子さんは、人生を楽しみながら、人の世の真実を
見つめて、超人的な数の作品を世に送り出した。それは色褪せること
なく「次は何を読もうかな？」と私たちに笑顔を与え、退屈を奪って
いくだろう。

原案 田辺聖子 脚本 長川千佳子
参考 『田辺聖子の世界展』

出演者

藤山直美 國村隼 いしだあゆみ 城島茂 鈴木杏樹 岸部一
徳 香川京子 田畑智子 小西美帆 岩本多代 火野正平
メイサツキ 小島慶四郎 イーデス・ハンソン 尾高杏奈 山崎
奈々 淡島千景 石田太郎 友近 板尾創路 ほか

昭和三六年から始まったNHKの朝ドラは、初回「娘と私」全二五
〇話一年間連続・週六日間放送だった。
昭和五〇年第一五回「水色の時」全一五六話から半年間シリーズと
なる。

令和二年第一〇二回「エール」全一二〇話より週五日となった。平
成一八年当時に放送された第七五回「芋たこなんきん」一五一話は半
年間、月曜から土曜日まで週六日間の放送だった。

尚、第一六回「おはようさん」（昭和五〇年 主演・秋野暢子）も
田辺聖子の原作。



初放映時の宣伝チラシ

2023年度のNHK連続テレビ小説は、前期は「ノダフジ」命名の牧野富太郎博士をモデルにした「らんまん」（神木隆之介 主演）、後期は下福島尋常小学校に在学した歌手笠置シズ子が主人公の「ブギウギ」（趣里 主演）。
いずれも福島区ゆかりです。

堂島大橋と田辺聖子

多田 一夫

田辺聖子の『私の大阪八景』にもたびたび登場する「堂島大橋」が二年間にわたる改修工事をようやく終え、令和二年（二〇二〇）二月一日から渡れるようになった。このことを、岡倉光男会員が二〇二二年3月発行の『福島歴史研究会会報第十五号』の「近傍の「往事点描」」で取り上げている。以下は、堂島大橋と田辺聖子にまつわる私なりの思いを文章化したものです。

大阪市のホームページによると、堂島大橋はもともと木造の橋であったが、災害による流失などをへて、「昭和二年（一九二七）九月に現在の橋に架け替えられた。このとき、土佐堀橋とほぼ直線で結ばれるようになった。橋長七五・八m、幅員二二・六mで、中央部に支間長五四・九mの二ヒンジ鋼アーチが架かり、両端には鉄筋コンクリートのアーチが配され」た、となっている。恒久橋といえども、九〇年を超える歳月で損傷（老朽化）が目立つようになったので、今回の改良工事（長寿命化対策）となったらしい。

なぜ大橋という名が付つけられかを想像してみると、

アーチ型の形態と、鉄筋コンクリート造りの構造から、さらに欄干には洒落た街路灯が置かれたロマネスク様式の橋であったからかもしれない。造った当時の住民・市民の自慢する姿がうかがえるようである。

人間で言えば九〇歳を超えた堂島大橋は、橋の両脇にある四本の橋飾塔のブロンズ板が金属類供出で取り外されたり、焼夷弾をうけたりした。人と同じく戦争の傷を負ってきた。それにもかかわらず、市電が、自動車が行き交う表通りの大橋として、福島区だけでなく大阪の人々の往来や活動を支えて来た。多くの市民がいろんな思いをもつて渡った堂島大橋は、これからさらに何十年にもわたって人々の生活を刻んでいくことになるだろう。

二〇一九年惜しまれながら九一才で亡くなった田辺聖子（以下聖子）は一九二八年生まれなので、堂島大橋の歴史とほぼ重なっている。

先にあげた『私の大阪八景』で、聖子は、堂島大橋や市電の通る表通り、紡績工場の後の広場（現・下福島公園）、中の天神さんといった風景とその中での人々の生活を、主人公・トキコの眼を通して生き生きと描いている。

私はトキコより二〇年あとの生まれであるが、トキコが見た風景が、東京オリンピック（一九六四年）が始まるころまで残っていたように記憶している。堂島大橋から市電に乗るだけで、堺の海水浴場まで行くことができたこ

と。四ツ橋にあった電気科学館（現在は名前を科学館と変えて、中之島の「国立近代美術館」の側にある）へも行ったこと。聖子の作品にも出てくる花電車を堂島大橋まで見に行ったことなどである。特に、暗い街の中をすべるように走る街電飾満載の花電車からは、おとぎの国に迷い込んだ感じがした。実際、夢の中に何回も出てくるほど印象が強かった。子供のころの私は、トキコが見たり、聞いたり、感じたのとおなじ風景の中にいたという感じがする。私も『私の大阪八景』ともに生きていたという思いを強くする。

ただし、「軍国少女」のトキコは戦争中の街の様子や人々の動きに強く影響された子供であったことが、戦後生まれの者とは異なるところだろう。

戦争中のトキコ（聖子）の心情や世界がどういうものであったか、二〇二一年に発刊された『文藝春秋』七月号掲載の「田辺聖子「十八歳の日の記録」」から知ることができる。雑誌の紹介文では、「空襲」「敗戦」「父の死」「夢」を鮮烈に綴った七十六年前の日記」とあり、また、「コロナに萎えた心を奮起させてくれる日記」（綿矢リサ・作家）とある。公表を前提としない、まったくの私的な日記であるだけに、戦争という非常事態（国という大きな状況では非日常であっても、日々の生活は続けなければならぬ状況）に投げ込まれた聖子（トキコ）と

彼女を取り巻く人々の様子や、聖子の心情の動きを読み取るのに一級の資料だと思われる。単行本化された『田辺聖子十八歳の日の日記』の詳細な分析を、田野昇会員が「田辺聖子「日記」文中の「欠伸男」顛末―自伝風小説の陥穽―」と題して『福島区歴史研究会会報第十五号』に執筆されている。

「十八歳の日の日記」を含む諸作品から、文学者としての聖子の若き日の感情や感性は、近隣の人々の間で、福島の街で育っていったことがうかがえる。聖子自から、福島の街での若き日の思い出を大切にしてきた、と表明もしている。

こうしたことから、福島区に彼女の顕彰碑を作ろうという機運が生まれてくるのも自然なことではないだろうか。福島区歴史研究会の活動の一つが、この顕彰碑・生誕碑の設置運動である。

文学碑を含むいろんな顕彰碑は、かつては、歴史の記録や地域づくりの観点から、大阪市が公費で行っていた。今は戦前の顕彰すべき事案だけを取り上げているらしい。そのため、顕彰碑の設置は、住民・市民のボランティア活動によらざるを得なくなっている。

聖子の顕彰碑を作る機運をどのように高めるかが課題となるが、聖子の作品等を好事家だけでなく、住民・市

民をはじめ多くの方々に知っていただくことから始めている。

新型コロナウイルスの蔓延で人々の分断を余儀なくされている
昨今、顕彰碑設置の機運の高まりが、人々の連携を取り
戻す一つの契機となるよう、また、地域づくり・福島
の街づくりの一助なるよう願っている。



戦争の傷跡を残した堂島大橋の親柱
2022.1.撮影

〔田辺聖子特集〕

聴講記録 田辺聖子「十八歳の日記の記録」

藤 三郎

タイトル 田辺聖子「十八歳の日記の記録」

― 日記から読み解く田辺聖子の世界 ―

日時 二〇二二年三月二七日午後二時～四時

会場 伊丹市立図書館

講師 中 周子（田辺聖子文学館館長）

柘植 学（文藝春秋編集者）

◇出版に至るいきさつ…遺族の田辺美佐さんから日記を持ち込まれ、
文藝春秋・柘植氏が文字おこし・編集・注釈を入れた。二〇二一年一
二月に刊行された。

◇日記…大阪大空襲の体験。空襲直後の道を歩く。自宅の焼失。
父の死と生活苦。食糧難等が書かれている。原文は、細字体・読みに
くい・ボロボロ・二段組（珍しい）・書く事への迫力と書きたい思い
が伝わる。きれいな字で書かれている。書き損じがない！

日記の文体と小説の文体は同じ。一生懸命に書いている。中に小
説が入っている。小説は普段の文体と違う。身構えている。固い書き
出しの小説。小説はむちゃくちゃ面白いわけではない。一生懸命に書

いている。この頃自分文体を発見したのか？後で書いた本はこの日記を参考にしている部分がある。『私の大阪八景』のネタ帳だった。

◇単行本デビューは二九歳 デビュー作『花狩り』

昭和三八年、「感傷旅行（センチメンタル・ジャーニー）」（『航路』発表。翌年、芥川賞を受賞して、女流作家としての地位を固めた。

◇編集者の苦勞…当時の様子がわからないので、昭和二年の大阪の古地図を見ながら、空襲の日（昭和二〇年六月一日）歩いた道をたどった。当時の古い表現や、樟蔭女子専門学校特有の言い方もあり、学校誌なども調べて、注釈を入れた。日記に編集者が注釈をつけた理由は古い言葉が多い。頭に入ってこない判りにくい部分がある。学徒動員関係、樟蔭女子専門学校の出版物など調べた。編集者Ⅱ第二の作者と言えるかもしれない。

◇その後の作品との関連…「自分で生きる」「自分が自然体」・「ちゃらんぼらん」・「人をだましだまし」・「いい加減が丁度いい」。これを利用して軽やかな生き方をしているが、根本はこの日記にある。「小説に何を書くか」「文は人なり」が何回も出てくる。書くことに執着した。努力の人と思う。一八歳からカモカまでずっと続いた作家は珍しい。七〇〇作品を書いたがスランプはなかった。

◇以下スライドより…

① 樟蔭女子専門学校二年生から卒業までの記録。

学校での学びと創作活動。 人生観・人間観・自己の成長の記録

② 日記を読む視点

(1) 田辺聖子が少女時代から抱いていた創作への執念

(2) 戦時下を生きた田辺聖子の過酷な体験。

(3) 田辺聖子の生き方・人生観と創作との関わり。

③ 創作の悩み（昭和二年八月七日）

小説が出来ない。一行も書けぬ。私は天分を少しも持ち合わさず、境遇も適っていないのに、大胆不敵にも文壇を目指した無鉄砲ものだ・・・。

ああ私に、人を感動させるというような小説を書けるのは、一体何時だろう。

④ 作家（藤沢恒夫）訪問（昭和二年一月二八日）

私が不日、ひとかどの作家になった時、その名前が出た時、いつかやって来た、あの小さい無愛想な女の子の事を思い出すだろうか。この女の子は作家に憧れて、野心に燃えています。いつか、きっと私は作家として立つでしょう。立たずにはいません。

⑤ 現代における英雄

もはや一国一城の主となることを夢見た時代は去り、現代における英雄は、日常生活に当たって泣きたくなるほどの辛さや苦しみを勇氣に満ちて突破する人ではあるまいか。

⑥ （昭和二年一月一日）

だんだん私は沈む。私に才能はないのかしら。しかし、行き着くし、倒れるまでやろう。

(一月一九日)

作家になるには、先ず一人前の人間にならなければならないと思つて、その修業にかかっている。

【所感】 自分の印象で

は、田辺聖子の小説は軽く、ありのまま、頭に浮かぶまま流れるように書かれているが、その裏にはかなり綿密な計算・計画性があつたように感じる。意外と努力の人だつた。それにしても少女時代から作家への強い思いを持っていた

のには驚かされる。文章に全く書き損じがなくまさに、「生まれながらの作家」であり「天才少女」だつた

「ちゃらんぼらん」・「人をだましましたし」・「いい加減が丁度いい」という部分には、共感を覚える。・・・真面目にやれ！と言われそうだが・・・。



各地で開催された展示のカタログ
田辺聖子の世界展実行委員会 二〇〇六

【田辺聖子のファン層の特徴と生誕碑建立計画】

当日の参加者は計四八名で、その内男性は自分も以外は三名だけであつた。このことから田辺聖子のファンは大部分が女性であると断定して間違いない。今後、福島区に生誕記念碑建立計画を進める場合、従来のやり方、即ち町内会・各種団体に寄付を依頼するようなやり方は通用しない。

地元福島地区の賛同が得られていないのが、残念であるが、田辺聖子は福島区から巣立つた、日本を代表する女流作家である事は変わりなく、本研究会としては、その研究・顕彰活動をより活発に進めるべきであると考えます。

【中氏との面談】

当日、末廣会長が、別件で出席できなかったため、代理で挨拶してきました。この時、秋までに福島区での講演をお願いした。その場合、本会員だけでなく全区民に呼びかける旨、伝えておいた。その後、中氏からメールがあり「田辺聖子について福島区で講演するのなら、この日記を発見し出版にこぎ着けた」田辺聖子の姪の田辺美佐さんと、中氏との対談形式”で進めたい。その場合、美佐さんの都合にあわせて講演日程を決めれば、自分はそれに合わせる」とのことだった。

「田辺聖子特集」

私記「田辺聖子文学館」訪問

田野 登

二〇二二年十一月一日、福島区歴史研究会のメンバー七名と大阪樟蔭女子大学の「田辺聖子文学館」を訪ねました。ボクは、荒本の図書館に行く時、いつも、樟蔭女子の北門の前を通って、小阪駅前のバス停に行くのですが、「田辺聖子文学館」訪問は初めてです。

今回、末廣訂会長から特別企画展「田辺聖子の青春」のお誘いを受けた時、咄嗟に「JR河内永和駅集合で、正門から入館しませんか」と提案をしました。それというのは、長瀬川の遊歩道を南に一〇〇mばかり、正門周辺には、可愛いお伽の国を思わせる木造校舎や風格のある記念館があるからです。

(以下の写真は許可を得て掲載するものです)

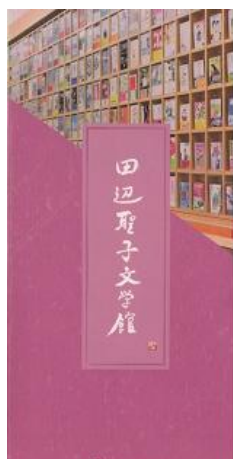


写真1 パンフレット 表紙
「田辺聖子文学館」



写真2 「夢うまれる」コーナー

館内に入り、「福島」を見つけたのは「夢うまれる」コーナーです

(写真2)。

「1928(昭和3)年、大阪の下町・福島」の田辺写真館に生を受けたとあります。「大阪の下町・福島」に生まれ育ち、気取らないのが「お聖さん」なのです。「夢はなやぐ」コーナーでは「ただしいことを信条にしたらかん・たのしいことをしたらよろし」とあります。ドキッとします。ボクなどホンマはアホやのに正しいことを求めて勝手にシンドイめをしています。

何よりもの感動は、『十八歳の日の記録』の実物が展示されていることです(写真3)。



写真3 『十八歳の日の記録』の実物



写真4 『十八史略新鈔』など

『文藝春秋』二〇二二年七月号、単行本二〇二一年一二月発行ですが、目にしなかった日記のホンマモンが展示されているのです。表紙にある赤いベベ着てる女の子は「お聖さん」なのでしょう。

今回の展示のもう一つ目玉はノート「外国文学史」の几帳面な筆記です。その傍らに『十八史略新鈔』という歴史読本といった漢文テキストが展示されたりしています（写真4）。

聖子さんの教養は、樟蔭女子の時代に東西の書物を読みあさったところで培われたのでしょうか。今一度、彼女の学生時代の習作を読む価値が認められそうです。

書斎再現コーナーに向かいます。ガラリと雰囲気が変わります。だいたい文人の書斎と来れば、ご本人しかわからない「秩序」があるものでしょう。パンフレットには「忠実に再現」とあります。庭に面した書斎に、文机、椅子が設えられ椅子にはクッションが無造作に置かれています。文机には書きさしの原稿用紙が開かれたままです。今にも、お聖さんが席に戻ってきそうです（写真5）。

この写真には、文机の傍らの大きなスヌーピーが立てかけられ、足元には小さなスヌーピーが二匹います。この異性の居る場所に立ち入ったボクは、あの雑然とした中で「彼女」を見失ってしまいました。気を取り直して、アフォリズムのコーナーに戻りますと「幸福な人間は親切である」とありました。ボクも人に優しく親切な人間になろうかな。田辺聖子文学は、すなおに読めばええのや。そのとき、そのとき、あるがままに生きる人たちを気張らずに描いたものと思います。

文学館を出ました。前日、大阪では「木枯らし一号」が吹いたとかで、多少、木立も寒そうに見えます。



写真5 書斎再現コーナー



写真6 記念館

一九二七（昭和二）年建築の優しい風格の記念館（写真6）です。田辺聖子を育んだ学び舎をあとにして、福島区歴史研究会の人たちに、一月一七日の月例会でみんなとお会いしましょうと約して家に帰りました。「お聖さん」の世界を少しばかり覗き見た感じを抱きながら。



令和3年(2021年)1月：福島区歴史研究会

「おせいさん」のこと、もっと知ろう



令和元年(2019)6月6日、福島区生まれの文化勲章受章者、小説・エッセイなど多くの作品を残した田辺聖子(以下聖子さん)さんが亡くなりました。

夜のTVニュースは各局が報道し、翌朝の新聞でも各紙一面で大きく掲載され聖子さんの業績が紹介されました。

版を重ねた『私の大阪百景』は聖子さんの少女時代の経験を基にしたもので、『田辺写真館が見た“昭和”』は福島区での多感な子ども時代を記録しています。

戦時下での体験は、『欲しがりません勝つまでは』などの小説にも反映されています。『福島区史』には「戦火に消えたわが町」という一文を寄稿しています。

今日残念ながら福島区に当時の面影はなく、聖子さんが住んでいたという痕跡もありません。子供のころ通った福島小学校の国旗掲揚台の台座に自筆の揮毫が残されているだけです。



文学史上に大きな功績を残した聖子さんの多彩な作品と、その人柄を長く記憶していただけるよう、福島区歴史研究会では聖子さんの実家に近く、作品にも登場するゆかりの地に「田辺聖子生誕地碑」を建てる運動を進めています。



碑の建立のためには、多くの皆さんに聖子さんの多彩な作品を楽しんでいただき、作家としての聖子さんの素晴らしさを知っていただく必要があります。そのため、このリーフレットをお届けします。

まずは、聖子さんと福島区のご縁を紹介します



田辺写真館



堂島大橋



下福島公園

大阪の福島区は私のふるさとである。私は昭和三年の生まれで、昭和二十年の空襲に罹災するまで、ずっと住んでいたからまる十七年を暮らしたことになる。福島西通の交差点（昔は五丁目といったが）から南の堂島大橋に至る、ちょうどまん中ほど、電車道に面した田辺写真館が、私の生家であった。～

小学校は福島尋常高等小学校、私たちの遊び場、電車みちの向いも馴の紡績会社跡の広っぱだった。「中の天神サン」も「上の天神サン」染みの遊び場だった。上の天神サンへの道には夜店がでた。夏祭は神輿もあった。～昭和二十年三月と六月の空襲で、なつかしい「わが町」は消えた。けれども私はその後、幾度もエッセイや小説に「わが町」ことを書き続け、それは私の心の中にいまも著くとどめられている。

区史に寄稿文「戦火に消えた『わが町』より抜粋 H5.4.1 (1993)

～でもトキコのうちは、コンクリートで出来ていてすごく大きいのである。～リノリウムを敷いたスタジオや応接間はひろいし、まっくらな、鉄の垂直な梯子をつたって上り降りするネガ置場や、くすり臭い暗室のたんけんごっこもできる～堂島川のうえを派手にそめた緋いろのあかね雲は、やがてトキコのうちのコンクリートの外壁をもサッと赤く染めあげ、陳列や二階のガラス窓をもいっせいに溶鉱炉の火のようにキラキラ光らせるのだ。

～朝の涼しいうちに表のプラタナスの街路樹の間へ床机を持ち出してもらって、そこで絵日記をかく。昼から向かいの紡績工場あとの広っぱへでかけて遊ぶ。車道を荷馬車が何台も通って、ボテボテと糞をおとしていく。

～地蔵盆がきた。トキコは毎年、地蔵さんのある路地で踊りに加わる。～あくる日学校へいくと、「かんできわって叱られた。おかしてたまらん、トッテレチンチリン」と男の子らが盆踊りの歌をうたっていた。

～ツイタチの日はちかくのく中の天神さんへおまいりして、兵隊サンの武運長久を祈願する。ときどき、電車道を、電車も車もとめて、どこからどこへいくのか、恐ろしい兵隊サンの行列がとぎれめもなく、膨大な量で移動していくことがあった。トキコたちは日の丸の旗をもって電車道にならんで送った。

～いつか、写真場の窓をあけて、母ちゃんは熱心に、下の電車通りをながめていた。「なにやのん」と寄っていくと、「遺骨かえってはるわ。ははあ、あれがおくさんやな。まあ、あんな小さい子オ抱いて気の毒に。あのおくさん、なんば位やろ」と母ちゃんは英霊の行列をしげしげとながめながらいった。すると先頭を歩いていた在郷軍人が話声をききつけて白い手袋をはめた手を威嚇するように振った。こわい顔して仰いでいる。母ちゃんは隣組長さんから、あとで油を絞られていた。

『私の大阪百景』『民のカマド』より抜粋

「～昔は電車がまん中を走り（慶祝の日は花電車も通った）、両側に、いろんな商店がぎっしり並んで、楽しかった。」

『わが街の歳月』より抜粋

・聖子さんは、多感で繊細な少女の感覚で、実家を中心に福島町の町を眺めた多くの作品を残しています。

～

聖子さんの栄典歴・受賞歴

田辺聖子 栄典歴

平成 7 年(1995) 紫 綬 褒 章
 平成 12 年(2000) 文 化 功 労 者
 平成 20 年(2008) 文 化 勲 章
 平成 21 年(2009) 伊丹市名誉市民
 令和元年6月6日(2019) 従三位 授与



田辺聖子 全集

おもな受賞歴

大阪市民文芸賞 『虹』（ペンネーム 木下桃子）昭和 31 年（1956）
 第 50 回芥川賞 『感傷旅行』 昭和 39 年（1964）
 昭和 51 年度大阪芸術賞（分野 小説）昭和 51 年（1976）
 第 26 回女流文学賞 『花衣ぬぐやまつわる・・・わが愛の杉田久女』 昭和 62 年（1987）
 第 27 回吉川英治文学賞 『ひねくれ一茶』 平成 5 年（1993）
 第 42 回菊池寛賞 平成 6 年（1994）
 第 26 回泉鏡花文学賞 『道頓堀の雨に別れて以来なり』 平成 10 年（1998）
 第 3 回井原西鶴特別賞（大阪の文学に貢献した人物）平成 10 年（1998）
 第 50 回読売文学賞（評論・伝記賞）『道頓堀の雨〜』 平成 11 年（1999）
 第 5 回キワニス大阪賞（児童虐待防止等推進団体）平成 14 年（2002）
 第 8 回蓮如賞 『姥ざかりの花の旅傘』 平成 15 年（2003）
 2006 年度朝日賞（田辺聖子全集完結至る文学活動業績）平成 19 年（2007）
 ・その他、NHK 放送文化賞・大阪ほんま大賞等あり

田辺聖子さんの歩み

昭和 3 年 大阪市此花区上福島に生まれる。実家は写真館（福島西通～堂島大橋あみだ池筋に面する）
 9 年 第二上福島尋常高等小学校（現・福島小学校）入学 15/3 卒
 15 年 淀之水高等女学校（現・昇陽高等学校・此花区）入学 19/3 卒 18 年福島区成立
 19 年 樟蔭女子専門学校（現・大阪樟蔭女子大）入学 20 年 大阪大空襲で実家焼失
 22 年 同上・卒業 大阪の金物問屋に就職（29 年まで）
 30 年 大阪文学学校で文学修行
 33 年 「花狩」を『婦人生活』に連載。最初の単行本となる
 41 年 神戸の医師・川野純夫氏と結婚
 47 年 初の評伝小説「千すじの黒髪 わが愛の与謝野晶子」刊行
 48 年 NHK 銀河 TV 小説『すべてころんで』放映
 51 年 伊丹市に転居
 53 年 「新源氏物語」=②の刊行始まる
 62 年 直木賞初の女性選考委員に
 平成 7 年 阪神淡路大震災で被災
 18 年 「田辺聖子全集」完結 文学活動 50 年 NHK「芋たこなんきん」放送開始 10 月
 19 年 樟蔭女子大学大学院小坂キャンパス内に「田辺聖子文学館」（東大阪菱屋西 3）
 ・令和元年 6 月 6 日 神戸市内の病院でご逝去

参考 少女時代や福島を舞台にした作品、大阪大空襲に触れた作品

※『花狩』 東都書房	1958
※『民のカマド＜福島界限＞』『私の大阪百景』 所収 文芸春秋新社	1965
※『欲しがりません勝つまでは 一私の終戦まで一』 ポプラ社	1977
※『わが街の歳月』『歳月切符』 所収 筑摩書房	1982
※『しんこ細工の猿や雉』 文芸春秋	1984
※『田辺写真館なるものありき』『大阪春秋 51』 所収 大阪春秋社	1987
※『おかあさん疲れたよ 上・下』 講談社	1992
※『淀川少女（おとめ）』『淀の流れ七十年』 所収 淀之水高等学校	1994
※『楽天少女通りますー私の履歴書ー』 日本経済新聞社	1998
※『私の『私の大阪百景』『ほっこりぼくぼく上方散歩』 所収 文芸春秋	1999
※『田辺写真館が見た"昭和"』 文芸春秋	2005
※『田辺聖子全集』 全 24 巻／別巻 集英社	2006



〔田辺聖子生誕地碑〕建立計画に賛同のお願い

ご紹介しました通り、福島区歴史研究会では碑の建立運動を進めていますが、広くみなさま方のご賛同が必要です。賛同・署名並びに募金については別途お願いいたします。

※ 碑 の 概 要： 碑は高さ1.2m・幅0.7m程度の大きさとし、聖子さんの作品を碑文とする。

※ 設 置 場 所： 聖子さんの実家に近いゆかりの地（調整中）

※ 建 立 資 金： 広く募金による。

問い合わせ先：福島区歴史研究会

会長 末廣 訂 E-mail: ugk20644@nifty.com

担当 多田 一夫 E-mail: kazu30175@gmail.com

TEL: 080-4394-2246

「田辺聖子特集」

田辺聖子「十八歳の日の記録」新聞取材

荻田善彦

二〇二二年六月三〇日（木）午後一時三〇分 日本経済新聞社客員編集委員・足立則夫氏が大汗をかき疲れた表情で我が家を訪問されました。

事前に末廣会長より連絡あり、大垣会員と共に迎えし伺ったところ、今朝東京をから来阪し、田辺聖子「十八歳の日の記録」に記載された、昭和二〇年六月一日大阪大空襲の日に歩いた道のとおり、鶴橋より難波へ、御堂筋を北上し梅田新道を左へ、今四時間かけて福島の実家「田辺写真館」付近に到着したとのこと。

早速冷茶で涼んでいただき、田辺写真館の位置の説明とその資料をお渡し、その他田辺作品に記載されている福島地域の現在の説明をしました。

足立氏は一九四五年当時の梅田新道付近のビルの位置を確認されたく質問を受けるも不明につき、歴史資料の豊富な北区役所への訪問を勧める。

これより北区役所を訪問し、本日中に東京にと話されて小一時間の休息を兼ねた取材は終わりました。

追記…二〇二二年八月一四日（日）日本経済新聞 朝刊 「田辺聖子

18歳の日記をたどる戦禍で築いた作家の力」全三面 掲載。

地図から消された中央卸売市場

―戦事体制下の情報統制―

西村美紀子

二〇二三年はうさぎ年である。そのため「うさぎ島」として知られる広島県の大久野島が、テレビ・新聞でとりあげられている。この島は国際法で禁じられた毒ガスの製造工場（昭和四年開所、表面きは火薬製造工場 敗戦後すぐ解体）であつたため、その存在は軍事機密とされ、地図からは消されてしまった。時折「地図から消えた島」としても話題にのぼっている。

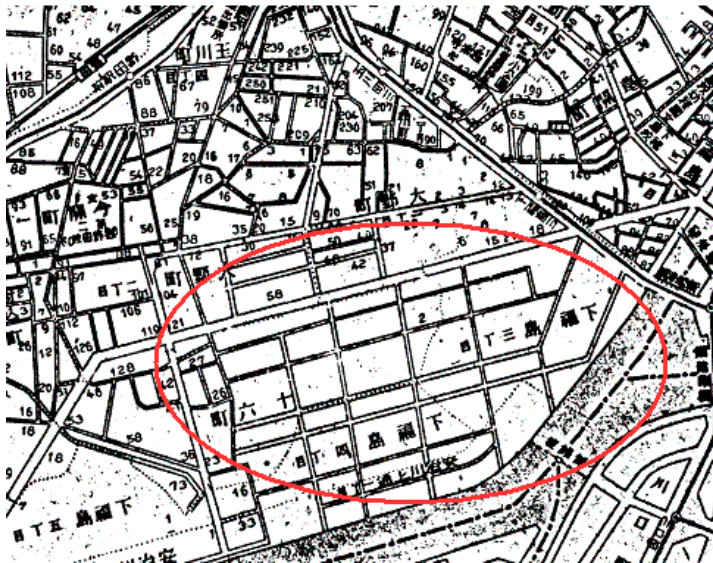
大阪城にあった第四師団や砲兵工廠も昭和一四年の地図から消えている。地図から消された施設は全国にある。

昭和一五年には全国の多くの地図会社が「日本統制地図」に統合され、昭和一九年には地図出版を一社に限定する国策により「日本地図株式会社」が設立された。

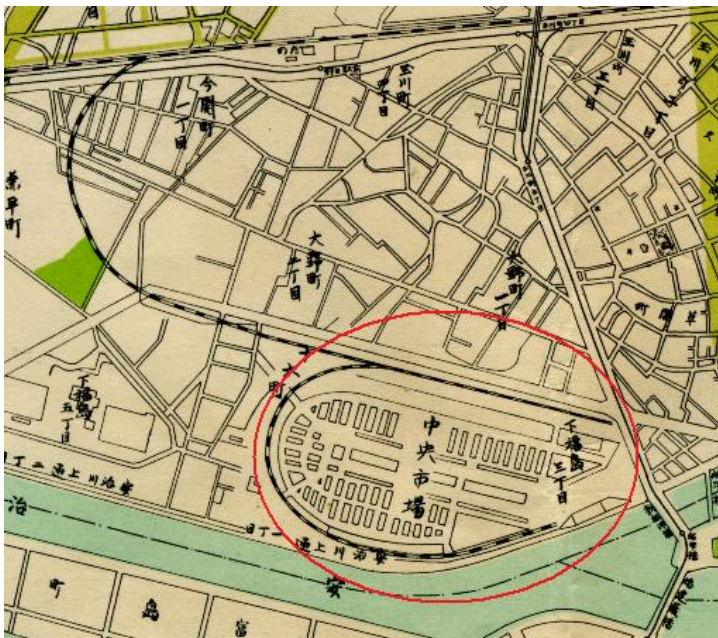
福島区では中央卸売市場（昭和六年開場）が代表的だ。市場に通じる貨物線（昭和六〇五九年 「大阪市場駅」が場内にあつた線路の跡地は現在野田緑地）も消された。

昭和一三年発行の「大大阪区勢地図」（夕刊大阪新聞社）の此花区には中央卸売市場・貨物線は掲載されているが、昭和一七年発行の「最新此花区地図」（日本統制地図）にはない。

昭和一八年、福島区が成立（此花区・西淀川区・北区の一部から）した時には福島区の地図は発行されていない。地図は軍事機密に属



「最新此花区地図」 日本統制地図 1942



「復興大阪区勢地図」 大阪新聞社 1949

するから、地図そのものの発行がこのころはあまりない。戦争の時代は情報を出さないのが当然であるかのごとく、国民に隠された事が多い。シーボルト事件（文政十一年―一八二八）で問題にされたのも地図の国外持ち出しである。

昭和十九年一二月の「東南海大地震」はM八・〇で（二〇二三年二月のトルコ大地震はM七・八）、愛知県を中心に死者二二〇〇人以上、家屋被害二四〇〇〇以上を記録しているが、報道管制もあり、報道は想像できないほど極小であった。大阪市でも死者一三人、家屋被害一六〇〇以上あった。翌年二〇年一月の「三河地震」でも

二二〇〇人以上の死者が出ているが、同様である。

明治時代になってから、日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦・日中戦争・第二次世界大戦と、戦争が常に国民とともにあった。

昭和にはいつて、「軍機保護法」（明治三十二年成立）・「出版法」（明治二十六年成立）・「新聞紙印行条例」（明治二年成立）治安維持法（大正一四成立）など国民を統制する法令がたびたび改正されていく。

地図については、「軍機保護法」（明治三十二年成立）の大規模な改正（昭和十二年）によって、検閲・統制が強化されていく。陸地測量部（明治二十一年成立）が独占的に作成していた地形図は、当初から

秘密であった（特に「皇室関係」・「軍関係」）。

昭和七年要部改正の二・五万の一地形図「大阪西北部」（京都及大阪16号）では中央卸売市場は「市場」という文字は残されているが、貨物線は記載されていない。

地図は作成者の意図・目的によって内容が取舍選択されるものである。地図を利用するときは、正確に現状が反映されているか、そういう観点で見ること必要である。

参考文献

- 『他人に話したくなる日本地図の謎』『地図の読み方』特捜班編 扶桑社 二〇一〇
- 『大阪古地図むかし案内 続々 戦中・昭和中期編』本渡章著 創元社 二〇一三 「描かれなかった司令部」
- 『防諜政策と民衆―国家秘密法制史の検証―』（昭和史叢書4法制） 瀬瀬厚著 昭和出版 一九九一
- 『戦時報道管制下隠された大地震・津波』山下文男著 新日本出版社 一九八六
- 『戦時改描図論考―偽装された地形図―』山田誠著 海青社 二〇二一
- 『地図で読む戦争の時代―描かれた日本、描かれなかった日本―』今尾恵介著 白水社 二〇二一
- 『言論統制文献資料集成 第一八巻軍機保護法』奥平康弘監修 日本図書センター 一九九二

トピック① 春日神社の新しい狛

台座のある新しい狛犬が設置されました。上海からの石材の搬入がコロナの関係で遅れていましたが、二〇二二年五月三〇日、無事祭式が執りおこなわれました。

台座の字は研究会のタイトルの書などを手伝ってもらっている筒淵公裕氏。藤の季節に立ち寄って見ては。



鷺洲にかかっていた親柱石碑 3

―親柱移設と銘板完成―

水谷浩一

二〇二二年三月、鷺洲小学校校舎増築工事の完成に伴い親柱も校庭北東に移設されました。

従来あった五柱に関西スーパ―前の路地にあった「さぎしまはし」の親柱も加えて、六柱見事に半円形の横並びで鎮座しています。

またこの度、児童達にも関心を持ってもらうため銘板（説明案内板）を作成しました。銘板には大正末期の鷺洲校下の地図を添付しています。当時の鷺洲は川や水路に取り囲まれた農

銘板（下段写真）は関係有志数名により手作業で設置されました。

前述の「さぎしまはし」の移設費や銘板そして四月一五日に末廣会長、藤崎校長、峰松連合町会長はじめ多数の関係者が集まり開所式を行いました。製作の費用については鷺洲連合町会、鷺洲小学校PTA、福島区歴史研究会の三者で負担していただきました。

多くの方々のご協力により鷺洲の歴史の一頁を後々まで残す事業を無事終えたことは感慨無量です。



鷺洲（浦江）の橋の親柱と道標

大正時代末期までこのあたりは鷺洲町浦江といいました。田んぼや畑に菜の花が咲く農村地帯で、聖天川をはじめ水路（井路川）に取り囲まれ、まるで校歌に歌われる「たみのしま」のようでした。当時の川に架かっていた橋の親柱や道標の一部が残っており、現在ここ鷺洲小学校の校庭に移設し、保存されています。

「正面右より」

- ① 鷺島橋（⑤と同じ橋）
- ② 豊中橋（名前の由来は豊田家と里中という地名から）
- ③ とよなかはし
- ④ 道標「右ニヶ崎 西ノ宮兵庫」（注）
- ⑤ さぎしまはし 「大正十三年一月架設」
- ⑥ さぎしまはし （中公園南側で発見）

（注）④山名碑といわれ、区内に数カ所あります。

右側「すぐ（直ぐ）」「湊はし」「さぎは（雑駁場）」「左大坂御城八けんや（八軒屋）いせ（伊勢）」 左面「すぐニヶ崎 西ノ宮」裏面「やまな米磯 慶応元丑年五月 世話人何某」

令和四年三月

福島区歴史研究会・鷺洲連合町会・鷺洲小学校PTA



コロナの中、三年ぶりの夏祭り

—海老江八坂神社の夏祭りが盛大に—

末廣 訂

二〇二二年の夏は三年ぶりに地元海老江八坂神社の夏祭りが行われ、盛大の内に終わることができた。

京都の祇園祭では、鷹山鉦が一九六六年ぶりに新調され大きな話題となり、また大阪の天神祭でも地車が新しくなり久しぶりにテレビで放映されて話題になった。

海老江八坂神社の祭りでは、祭りの華である地車・太鼓のパレードや夜の宮入りが大勢の見学者で囲まれている様子がユーチューブの動画で発信されている。

祭り好きなものにとって、待ちに待った祭りであったが、やはり丸二年間もの空白とコロナ禍での開催は、当事者には目に見えない努力と苦労があった。

*祭りの事前準備とスケジュール

私が元老を務めている北之町（枕太鼓）の例年の行事進行スケジュールから簡単に紹介すると；；

各四町にはほぼ同じ役職がある。太鼓の場合の運営（組織）委員は町総代、宮総代。会計、会計監査、元老、相談役、中老筆頭、安全委員、庶務委員、児童委員、進行委員、連絡委員、実行委員（若中）、

各地区委員、太鼓指導委員の構成になっていて、総勢一六〇人ほどがいる。

六月に入ると祭りの役員たちはそれぞれの担当があり、準備に入る。例えば六月初旬には翌年の総代選出会議がある。総代はほぼ順番であるので、実務の打合せとして、全体の役割、スケジュール調整、と巡幸行程等の検討が始まる。(一方では福島警察署への巡幸コースの申請や四町の打ち合わせ等あり)

六月半ばには元老・相談役と現役役員とで全体の中身の確認会議があり、末日までに、「総会」が開かれる。

総会には全祭りの関係者(約一〇〇人)が集まり、総代や担当役員から神社全体の四町打合せ事項、太鼓の巡幸コースの地図と時刻の確認、等々きめ細かい説明がある。質疑応答の後、直会に入る。

七月の第一日曜日には、太鼓・地車の洗車、神社内外にのぼり・竹矢来設置、そして各町それぞれに提灯を建て、主要道路には企業名が入った寄付による御神燈提灯が設置される。

第二週目から太鼓の囃子の練習が始まる。そして各町は祝儀集めの「趣意書」を事前に各家庭や企業に配り了承を得る。

太鼓の練習は児童四〜六年生が中心で、毎夕六時から始まる。一六日は祭り用の食事や小休憩や接待場所に氷・飲みもの等の準備し、夕方は太鼓の飾りつけをする。

今年は七月一七日(宵宮)と一八日(本宮)が日・祝で実質、十五日の金曜日に企業中心に祝儀集めが始まった。

一七日に宵宮の行事が始まる。祭礼関係者が神社に朝九時に集まり、

お祓いを受けた後、早速各町別々に手分けして各家庭に梵天を持ってお祓いし手打ちして祝儀をいただく。夕方五時から神社にて四町の競演があり、その後、夜のパレードに出立する。パレードは自町を二時間ほど巡幸して八時ごろから、四町揃ってパレードを行い、神社に戻り納庫する。

一八日の本宮行事は早朝から太鼓・地車の巡幸が始まる。朝、八時に全員がお祓いを受け、神社を出立する。太鼓の場合、朝の食事を副総代宅にて、其の後は自町中心に巡幸をし、三時頃から四町揃って午後のパレードを終える。夕方は総代宅で夕食を済ませ夜の宮入りに入る。夜七時頃、当宅前で太鼓の台車を取り外し肩合わせ後、太鼓を担いで宮入りに入る。今年は三年ぶりの宮入りで若中も力が入り、立派な宮入りであった。

本宮の翌日は、朝から祭りの後片づけや祝儀の花開きがあり、午後にはねぎらいの直会で終了する。北之町では祝儀をいただいた約八〇〇件(内二〇〇〇円以上)を金額順にリストアップして後日印刷し公表している。

***海老江八坂神社 祭礼行事の移り変わり**

海老江には、枕太鼓と地車三基がある。一つの村で四台の祭台があるのは大変珍しい。祭の盛んな岸和田、平野でも旧村や町単位で地車が一台しかないが、海老江は東西南北四町あり、それぞれが神社の庫に納庫している。

これほど盛大に行われている祭りだが、祭りに関する書いたものが

少ない。純農村であつた海老江は五穀豊穰を祈って、元々秋祭りが中心であつたと考えられが、疫病予防を祈願する京都の八坂神社と同じ夏の大祭に移り現在に至っている（明治初めに牛頭天王社から八坂神社に改名されている）東西南北四町の世話人の組織はおおむねよく似ており、祭礼は町総代を中心に各役割がある。各町によって法被、浴衣、鉢巻きの色が決まっている。北之町は白色、東は黄色、南は桃色、西は水色、である。

地車の囃子や手打ちの言葉は天神祭の影響がある。「打ちましょう」で始まる手打ちは四町共通だが、北之町だけが最後に「あめでたいなー」が入り、祝儀をいただいた折の手打ちも同じである。

*コロナの中の祭りと苦勞

七月に入り、コロナが第七波になり、児童の感染者も増してきた。この二年間、特に六年生の子供は四・五年生時に祭りが中止となり、今年が太鼓をたたく最後のチャンスであつた。練習日の初日から待ちに待った練習が始まり、約四〇名の子供で一〇組ができ、一週間の練習が始まった。祭り目前にコロナ感染で六年生の学級閉鎖があり、半分以上が途中で参加できなくなった。

三年目になってやっと晴れの姿をと頑張っていた六年生の気持ちには親子ともども残念であつたと思う。半面、残った五年、四年生のたき手たちは本番も少人数で二日間よく頑張ってくれた。

実は私の孫も、都島区から二人（五年と六年生）每晚練習に来ていたが、六年生の孫が一七の前日の晩になって、熱が出て急遽自宅に戻

し、本番は出られず大変残念がつていた。

また、一方で祭りの一か月前に、北之町の一番長老（九四歳）の元老が亡くなられた。本来、北之町では役員が亡くなると、出棺の折は祭り関係者全員で手打ちをして見送ることになっているが、コロナ禍でそれも出来なかった。そんな中、ある役員の発案で太鼓巡幸の折、長老宅前で太鼓を差し上げしようということになり、私も約三〇年ぶりに長老ご家族の前で太鼓を担ぎ叩うことができた。

後で他町の役員の話では、祭り後、コロナに罹つたという祭り関係者が続出したそうで、

今年の祭礼行事が大変な祭りであつたことが分かった。

パソコンやスマホを持っていく方は一度「八坂神社夏祭り」を検索してユーチューブをご覧ください。

（写真は亡くなった長老宅前で三〇年ぶりに太鼓を担いだ当年八一歳の私です）



二〇二二年の病歴反省経過

岡倉光男

前文

人生百年時代に突入、往年あまり罹らなかった病に罹る。私的な経験を披瀝して、皆様の健康で長生きの一助になればと思う。

一 大腸検査

二〇二二年一月中旬、大阪病院で、下部内視鏡検査を受ける。大腸観察でポリープは見つからず。同昨年末、予約していた、同じ検査を受けるべく、変わられた医師のお話を伺う「ポリープ発見時より癌が大きくなり、肺や肝臓など他の臓器への転移のおそれがある、要手術・抗癌剤投与の第三ステージになるまでに約十年はかかります。貴男の年齢（八九）では、検査の必要は無いでしょう」と言われた。

二 前立腺肥大症

今から七年前、前立腺肥大症に罹る。

尿が出ず、バケツを横に置いて、その内に治るだろうと気張っているが、時間ばかりが経って次の日、野田阪神駅北側にあるYクリニックで膀胱までカテーテル挿入、尿管八分目程の尿が出て、それまで脂汗が出て苦しかったのが、スカッと楽になつて助かった。一週間ほど、尿を溜めるビニール袋をぶら下げて生活したが、薬が効いてカテーテルを抜き、尿袋を外した。以後は月に一度、処方箋を頂きに、時々エ

コーを下腹部にあて、尿の溜り具合の検査をされた。医師に手術の話を伺ったが、「出来る医師を知っている」と言われて、それつきりになり進展しなかった。

二〇二二年一月の大阪病院での下部検査後、それまでの薬を、穏やかな薬に変えますと言われ、頂いた薬を飲むと、次の日から尿意が無く尿の垂れ流し、急いで紙パンツ、紙パッドを装着して凌ぐ。直ぐ元の薬に戻して貰うも治らず。大阪病院に入院する。膀胱に雑菌が入って炎症を起している、とのことで点滴による抗生薬の投与を一ヶ月近く続け、手術をして貰った。が尿意の催し、認識は戻らなかった。ほんのあともう少し早く、手術をしていれば、おむつの要らない生活が出来ていたのにと大いに反省しきりである。

四月九日退院、診療費六八万円がカードで支払いしようとするも、作動せず、一度に出せるカード支払い限度額を超えていて慌てる。幸い家に現金が有って一括払いが出来、無事退院出来た。

約二時間毎に尿で、重たくなった紙パッドを交換、捨てて纏まった分量をゴミ出し日に注意して、一般ごみと一緒に投棄。遠くに出掛けるのも控えるようになり、生活のクオリティが低下、費用もパッドとパンツで毎月約一五〇〇〇円、年間一八万円程かかる。「医療費控除対象品」で経費として算入できるが、医療保険対象品では無い。

ほうかしきえん

三 蜂窩織炎

昨年七月と九月に二回、大阪病院に二週間弱ずつ入院した。最初は前立腺肥大手術後の月一回の尿検査と薬の処方箋を頂くため担当医

師と問診中、左足のすねの左右両側が手の平の大きさで赤く、成っているのを見られて、皮膚科の女医さんと呼ばれる。即入院の要ありと言われ、家が近いので一度帰らせて下さいとお願いするも「死にますよ」と言われた。

全く知らなかったが今、インターネットで蜂窩織炎を検索すると、詳しい内容が読める。入院中六時間おきに、抗菌薬の点滴を受ける。夜中も約三〜四〇分の点滴があり、早朝毎日のように、血液検査用の採血を受けた。八月四日入院一日目に退院したが、九月七日に三八度の熱が出て、吉野三丁目のきし脳神経外科リハビリクリニックでPCR検査後頓服薬飲む、コロナウイルス感染症は陰性だったが、次の日左足ふくらはぎが赤く、蜂窩織炎再発し大阪病院に入院。抵抗力・免疫力の低下で小さな傷から細菌が皮下脂肪に入り化膿する。二週間の抗生剤点滴で治るが、手当をしないと重態に陥り、肺炎の症状と似て、生死に関わる。

予防法としては、禁酒。膝下に弾性ストッキング或は、レッグウォーマー装着。白色ワセリン・メンターム塗布などがある。

古い写真を探しています

お手元のアルバムに

災害や今はない建物などが

写っているものがあればご提供ください

展示などに活用させていただきます。

メリヤス会館見学会報告

宮本隆正

日時 二〇二二年一〇月五日(水)

午前一〇時三〇分〜一一時二五分

参加者 当会会員七名 榎田様(発案者) 福島連合(当会館のある町会の新旧町会長) 計一五名

この度、解体が近いメリヤス会館の内部見学を実施する運びとなる。これには当会の萩田会員にご尽力をいただき、大垣会員にご助力いただき実現した。紙面を借りてお礼を申し上げます。この見学会の発案者である榎田様も参加された。ご案内は、こちらも萩田会員のお知り合いの田代一級建築士（そうひょうぞう）にお願いした。

この建物は**宗兵蔵**が設計したものであり、他に彼の作品には、堺筋沿いの生駒時計店、柴島の水道記念館や北浜の難波橋(ライオン橋)などがある。

メリヤス会館は、向かって右側(西側)が一期で昭和四年竣工。左側(東側)が二期で昭和一二年に竣工した。

福島界隈には小さなメリヤス業者が集まっており、昭和元年に製品の輸出手続きを行う組合を設立。三年後にその事務所として、このビルが完成した。

内部は採光を重視し、片側に窓を並べたり、廊下の両側に部屋を配

したり、変化に富んだ平面構成になっていた。何度も増築を重ねたので、内部はまるで迷路のようになっていた。

現在の内部は解体に向けて、すっかり片付けられていたが、入居していた飲食店や事務所には残置物があり、飲物のビン、昔のレコードやソノシート（春日八郎・美樹克彦など）、建築関係の書籍など興味深いものが残っていた。



二階の一室



二階の窓に面した廊下

大輪田泊（のち兵庫津）の歴史散歩

澤田耕作

コロナの落ち着いた二〇二二年一〇月二七日（木）の平日に、四名で散策に行くことになりました。

正午に阪神野田駅改札口に集合、急行で阪神西宮駅、特急に乗換えで阪神三宮駅に午後一時前に到着、さらに三宮地下街を歩きJR三宮駅に乗換、JR兵庫駅へ、途中車窓より花隈城跡（石山本願寺支援の毛利勢監視、のち荒木村重籠城・落城）、湊川神社を眺め十分余りで到着、ここより歴史散策へ・・・。

この兵庫駅（高架駅）は昭和五年に造られ、支線に和田岬線があります。

和田岬線は朝夕の通勤時のみ運行され、三菱重工神戸造船所（M三八年創業）、川崎重工神戸工場（M35創業 現在新幹線などの各種車両製造）等の多くの工場があり、先日自衛隊の潜水艦が進水したニュースがありました。

北側兵庫駅正面に出て山側の大開の先が会下山公園があり、野田ふじの命名者「牧野富太郎植物研究所跡」碑、東郷平八郎書による「大楠公湊川陣之遺跡」碑があり、写真を見ていただきました。

また兵庫区北部は「福原京遷都八百年記念之碑（荒田八幡神社内）」、「安徳天皇行在所址（荒田八幡神社内）」、「雪見御所跡（清盛居住跡

湊川小学校内」の史跡等があります。

駅高架沿いを東に歩き、この四百m先が新開地、さらに五百m先が湊川神社があり、境内に「楠木正成公戦没地」跡、お墓があり、墓前には尼崎藩主松平氏七代の灯籠、明治以後も献灯されています。

尼崎藩領地は神崎川西側から須磨区東部（摂津国）までの沿岸部でした。

「明和の告知（あげち）（一七六九年幕府による領地の取上げ事件）」以後は、幕府の直轄地（兵庫区から西宮まで）となりました。替地は現在の多可・宍粟・赤穂三郡の遠い飛び地を与えられ、以後は幕末まで財政的に厳しい藩になりました。

JR高架をぐりぬけて、「柳原惣門跡碑（やなぎはらそうもん）（兵庫津西の入口）」の向いの禅宗福海寺へ、同寺は足利尊氏が新田義貞軍に追われ隠れたところ、後に恩義を感じ建立した寺、境内に尊氏の「御詠歌碑」、平清盛が愛した「時雨の松の碑」があります。

西向いの「柳原戎神社」を横に見て、駅からの旧西国街道を南下、この辺りが淀川長治さん（映画評論家）の生家があった所ですと案内。

阪神高速神戸三号線（国道2号）を越えて二筋目を右に折れて天台宗能福寺へ、同寺は清盛所縁の寺、正面に兵庫大仏（蓮台から一八m、重量約六〇t）明治二四年建立、戦時中の金属供出令で無くなるも、平成三年再建されました。横には清盛の供養塔（十三重塔 昭和五五年建立 八百大遠忌）が建立復興され、脇右側に円実法眼宝篋印塔（えんじつぼうがんほうきやういんとう）

条兼実の弟、清盛の師、京都より清盛の遺灰を兵庫の地経ヶ島に埋める 平家物語より）左側よりには忠快法印塔（能福寺中興の祖、清盛の甥）があります。

さらに横には「備前藩士 滝 善三郎の墓」があります。明治維新の中、神戸事件（類似に生麦事件・堺事件など、開港間のない）の責任を取り一人切腹して、神戸の植民地化（外国人兵による神戸占領）を防ぎました。

また奥には昭和二八年旧公爵九条家よりの拝領拝殿「月輪影殿」つきのかげでんがあります。

この寺は旧院家（いんげ）青蓮院門跡に次ぐ皇室・公家出身の僧侶が継ぐ寺）の寺格の高い寺だそうです。境内の片隅には敷地より出てきた小さな五輪塔が多数・・・説明書には源平兵士の供養塔と書かれていました。

この兵庫区、長田区、須磨区には一の谷の戦い（例えば敦盛の塚など）に散った平家の公達（きんだち）の供養塔、墓が多数あります、これも写真を何点か見て戴きました。私の住む尼崎市内の神崎川河口には「史蹟寺江亭址伝説地（藤原邦綱別荘 塩野義製薬敷地内）」の石碑があり、福原京遷都前後三年の京都からの上皇、天皇、公家、清盛他らの出入り・宿泊が玉葉（たまはつ）（九条兼実の日記）、山槐記（さんかいき）（中山忠親の日記）、明月記（めいげつき）（藤原定家の日記）など他の文献に残っています。

次は再び旧西国街道に戻り、兵庫津の中心地（豪商・旅籠・本陣・・・）「札場の辻跡」へ、ここで旧西国街道は直角に東に曲がり、先には「旧岡方倶楽部（江戸時代から続く三方の町自治組織の一つの惣会所 おおかた）

昭和二年建築現在文書館」、さらに東一・五km先には若者が集まるハーバーランド。

辻角には「萩藩 行程記（参勤交代道中絵図宝暦十二年頃長州藩作成）」兵庫津版が掲示され、当時の町割がわかります。

また辻脇の兵庫の伝統佃煮いかなごのくぎ煮老舗の「樽屋五兵衛」にも立ち寄り覗いてみました。

さらに南へ、漁港（奈良時代行基が開いた五泊の一つ大輪田泊の名残、平安時代末期は清盛の日宋貿易港、室町時代は足利義満の勘合貿易港として、戦国時代は各武将による軍港・商港として利用）が見えてきました。東側の島上町（清盛が大輪田泊を改修、風波避けの埋立地、造営の地経ヶ島か）にある浄土宗来迎寺（通称築島寺）に行きました。狭い境内には「松王丸（小児）入海の碑（人柱の身代わりを、清盛が菩提を弔い建立）」、「妓王妓女塔（嵯峨野の庵を閉めて、この地で清盛・平家一族滅亡を弔う伝説）」があり、平家一門滅亡の悲壮さを想像します。

漁港の堤防沿いには「古代大輪田泊の岩棕（大輪田泊の石材か）」、「兵庫津日本遺産北前船寄港地の幟」があり、江戸時代は沖に大きな船が停泊して、小さな船に荷物を乗せ換えて陸揚げしていたそうです。

新川運河（明治初期開削 兵庫城）に架かる入江橋（上にバス停全国的にもめずらしいとのこと）を渡ると、ずっと見えていた「イオンモール神戸南店（前神戸中央市場 その昔兵庫城跡）」へ、東口には兵庫城発掘調査の写真数枚と解説（主に平成二六から二七年発

掘）がありました。兵庫城は信長の家臣池田恒興が天正八年に花隈城を落城させ、廃材を利用して築城されました。本能寺の変後の秀吉の中国大返しの際にも利用されたのではと推測されています。イオンモール運河側の遊歩道で小休止、発掘風景・出土物の写真、兵庫城の復元絵図等を見ながらお茶を戴きました。

後半スタート、再び入江橋を渡ると兵庫津のマスコット清盛君がお出迎え、新川運河沿いはキャナルプロムナードとして整備され、歩き易い遊歩道になっています。和田岬方面を指しながら、三菱重工業神戸造船所内には幕末に勝海舟設計による砲台「史蹟和田岬砲台（直径一四m高さ一一・五m）」が残っています。他に現存しているのは、西宮市香櫨園浜に残っています。幕末ロシアの軍艦ディアナ号が尼崎沖に停泊して大阪湾を測量したことで、尼崎藩は独自に五か所砲台を造ったという記録があります。イオンモールの向い、新川運河を挟んで「兵庫城跡（最初の兵庫県庁の地）」の碑があります。兵庫城は尼崎藩時代は陣所（兵庫津奉行所）、幕府直轄地時代は勤番所（大阪東西奉行所管轄）、明治初めは初代兵庫県庁の地と変遷しています。

遊歩道を離れて真光寺（時宗一遍上人の墓があります）の傍を通り、住吉神社へ、そこには清盛塚があります。第九代執権北条貞時の建立とも伝えられている「清盛塚石造十三重塔（基礎部分に弘安九二月日の銘 高さ八・五m）」、大正時代に道路の拡張移設（路面電車敷設のため）の際に墳墓でないことが確認されています。隣には「平清盛像（神戸港開港百周年記念事業 昭和四十二年建立 彫刻家柳原



左から十三重塔（弘安9（1286）年2月建立）
清盛像（昭和43（1968）年建立） 琵琶塚

義達作」が、またその脇に「琵琶塚（琵琶形の塚 清盛の甥 琵琶の名手平経正の墓と伝承）」があります。この一画だけは異空を感じます。

西の方の清盛橋を渡ると「時宗薬仙寺」があり、清盛によって幽閉された後白河法皇幽閉地「萱^{かや}の御所の跡」の石碑があります。

新川運河を再び、跨ぐ大輪田橋（大正一三年竣工）を渡ると折れた橋柱に「大輪田橋 戦火震災モニユメント」のプレートが嵌^{はま}っています。二つの災害に耐えた橋（橋の裏は焼け焦げた跡、煤が残っています）です。

二〇二二年一月末完成予定の兵庫ミュージアム（歴史博物館）と初代兵庫県庁の復元館（昨年オープン、この辺りは町組織南方地域^{みなみかた}、幕末まで浜本陣が九軒あり、参勤交代の西国大名の常宿となっていました）は見学せずに大輪田橋脇の「神戸大空襲慰霊碑（昭和二〇年三

月一七日被災）」の傍^{かたわら}を通り、オリーブがたわわに実った木々があるキャナルプロムナード（遊歩道）に戻り、町歩きは無事終了。テラスで小休止、お茶を飲んで、イオンモール神戸南店内を横切り、中央口より神戸市地下鉄海岸線中央市場前駅から三宮・花時計前駅で降り、地下街を歩き、阪神三宮駅から特急に乗り、それぞれ帰途に着きました。

追記

現在の神戸市の中心は三宮・元町辺りですが、明治以前は兵庫区南部の兵庫津（神戸港）が政治・経済の中心、交通の要所でした。

安政五年の日米修好通商条約他（オランダ・ロシア・イギリス・フランス）では開港場（函館・神奈川・長崎・兵庫・新潟）になりましたが、攘夷気運が高く、朝廷のある京都に近いため開港の勅許が得られず、第一五代将軍徳川慶喜などの働きかけにより、遂に慶応三年十二月七日に兵庫津でなく、神戸港で開港（五年近くかかりました）しました。兵庫津はすでに多くの住民が暮らし、居留地を新たに創るにも狭かったので神戸村、現在の神戸港の開港に至りました。

資料

「水曜歴史講座テキスト」尼崎市教育委員会 歴博文化財担当
『新修神戸市史 歴史編Ⅲ 近世』神戸市 一九九二
一般財団法人神戸観光局パンフレット
兵庫津日本遺産の会 兵庫区役所協力 他

「浪花百景」絵解き・謎解き

―二〇二二年第一回セミナー報告―

大垣 禎秀

日時 二〇二二年五月二十九日(日) 午後二時～四時
会場 福島区民センター三〇一号室
講師 湯川敏男氏(元大阪府立大学大阪検定客員研究員)
テーマ 「浪花百景」絵解き・謎解き
参加者 五五名

コロナ感染で出されたまん延防止等重点措置も解除され、感染対策を講じ、一年ぶりの開催となった。五五名と定員より多く参加していた。

「浪花百景」は大坂の浮世絵師三名の合作による幕末の錦絵の名所風景画で、歌川国員くにかずが四〇図、南粋亭芳雪なんすいてい よしゆきが二九図、里の家芳瀧よしたきが三
一図担当し、全一〇〇図に作品名を記した目録二枚が付されている。板元は平野町淀屋橋の石川屋和助で「石和」の略称で知られる。

講師の湯川氏はダ・ヴィンチの絵に隠された暗号を解いていく映画「ダ・ヴィンチコード」をもじって「ヒヤックエイ・コード」と名付け浪花百景に隠された絵師、板元の遊び心で仕かけたタイトルを記した色紙形の模様の謎、絵に隠され謎等いろいろ研究されている。

福島区に關係するのは六景あり。

第六景 蛸の松夜の景(国員画) 中之島の広島藩蔵屋敷の西隣には

久留米藩蔵屋敷のあり両者の中間の堂島川左岸(現北区中之島)の浜に「蛸の松」があつた、白壁は久留米藩蔵屋敷で右端には船入橋が見える。老松は明治時代に枯死してしまった。現在は福島区福島二丁目検察庁の南側の堂島川沿いに新しい蛸の松が植えられている。

第三〇景 福しま逆櫓の松(芳瀧画) 平家と船戦を前に源義経と

梶原景時が船を後方に操れる逆櫓を付けるかで議論が行われたと伝えられたところで、絵には黒壁から覗く松が描かれてる、明治元年の北の大火で焼失。現在は福島区福島二丁目のマンションの前に新しい松が植えられ碑も建てられている。

第三一景 野田藤(芳瀧画) 色紙形に絵師の名前が隠されており、

右上の部分に「よ」が二つ連なりこれで「よし」、左下に変体仮名で「たき」すなわち「よしたき」が隠されており色紙形の模様は 絵師「芳瀧」と判読できる。現在の玉川の春日神社。

第四二景 うらえ杜若(芳瀧画) 杜若と空を横切る燕二羽の組み

合わせで、藤の花が垂れているのが見えており、そして色紙形に謎が隠されてる、「イ」が四つで「いし」、輪が数個描かれており「わ」すなわち「いしわ」が隠されており、板元の「石和」と判読される。

鷺洲の了徳院、浦江の聖天さんで現在も春になれば杜若、藤の花も咲く。

第六〇景 玉江橋景(国員画) 架橋当初は堀江橋と称したが一六

九八年に玉江橋と改称された、橋で行軍する武士団は大坂の治安預か

る「浪花隊」。正面に見える塔ですが反りが大きく南東に振って架かつていたため北から渡ると真正面に四天王寺の五重塔がみえた。今では福島区から四天王寺の塔が見えるとは考えられない景色である。

第六三景 安治川ばし（国員画） 諸国の廻船が集う安治川口の景を描かれてる。明治に新しいものが架けられたが、一八年の大洪水でなくなった。現在の中央卸売市場あたりに架かっていた。

福島区に關係する六景を記載させていただきましたが、まだまだ多くの場所が描かれており、お話の中から絵の中にはいろいろなものが隠されており、見れば見るほどいろいろと見つけられると思います。

大阪百景の復刻版が二〇二〇年に復刻原寸「浪花百景」集成が創元社から出版されており、図書館に行けば見られると思いますので、描かれてる場所と現在と見比べていただきたいと思います。



歴史遺産を地域に活かす

―世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」

遺跡・史跡の保存と活用

二〇二二年第二回セミナー 報告―

澤田耕作

日時 一月二七日（日）午後二時～四時

会場 福島区役所 六階会議室

講師 正木 裕氏（大阪府立大学講師）

参加者 四一名（一般二六名・会員一三名＋区長・館長）

一 正木氏自己紹介

考古学の専門家ではないが、大学では地域政策を担当、地域・都市のブランド力・資源（魅力）を見つけて磨くと共に、地域の活性化（観光など）に遺跡・史跡を生かすことを課題にしている。

二 講演の内容

◆大阪の都市魅力をどう向上させるか

大阪・関西に繁栄をもたらしたアジアの観光ビッグバン→コロナで状況は激変↓ポストコロナの集客戦略は？ 大阪万博、IR（総合型リゾート）・・・

◆長期的な視野で大阪の都市魅力を高めるにはどうすればよいか？

大阪には世界に誇れる「ブランド資源」がある

- ①商都大阪（商業施設・商店街） ②水都大阪（水の回廊・堀川）
 ③食のまち大阪（飲食店街・食文化） ④エンターテインメント都市
 （USJ・海遊館） ⑤上方芸能（文楽・落語・漫才） ⑥祭礼（恵
 比寿祭・天神祭・だんじり） ⑦都市施設（梅北・ハルカス・パーク
 ス）・・・

◆忘れてはならない大阪の「歴史資産」

大阪は弥生時代から発展し、巨大古墳群が造られ、我が国初の京「難波京」が造営され、秀吉・徳川時代に大阪城が出来、市民の手で再興されるなど、優れた「歴史遺産」があり、これらを紹介する多数の博物館もある。こうした資産の価値を認識し、保全と活用にも努めることで、「時代を越えた」大阪の都市魅力を受け継ぎ、その場限りでない集客力を高めていくことが出来る。その象徴が世界文化遺産に認定された「百舌鳥・古市古墳群」だと言える。

◇世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群

百舌鳥・古市古墳群は二〇一九年五月一三日ユネスコ諮問機関のイコモス（国際記念物遺産会議）から登録勧告があり、七月六日にアゼルバイジャンの首都、バクーで開かれたユネスコ世界遺産委員会の審査を経て世界文化遺産に登録された。また、その保存管理の在り方と活用策について勧告が出され、今後の課題とされた。

◇他に追従を許さない大阪の古墳群、百舌鳥・古市古墳群とは

①百舌鳥古墳群は、元は一〇〇基を超える古墳群で、大阪府堺市北西部の古代の海岸線に近い上町台地に続く台地上に位置し、現在約四三基の古墳が残る。大仙陵古墳（伝仁徳天皇陵 墳丘長五

二五m）、上石津ミサンザイ古墳（伝履中天皇陵 墳丘長三六五m）、御陵山古墳（陵墓参考地 墳丘長二〇三m）など墳丘長二〇〇m以上の大型の前方後円墳三基を含む。

②古市古墳群は、元は一二七基を超える古墳群で、羽曳野市・藤井寺市の東西約二・五km、南北四kmの範囲に広がる現在、菅田御廟山古墳（伝応神天皇陵 墳丘長四二五m）、仲津山古墳（伝仲津姫命陵 墳丘長二九〇m）、

岡ミサンザイ古墳（伝仲哀天皇陵 墳丘長二四二m）など墳丘長二〇〇m以上の大型前方後円墳七基を含む、四四基の古墳で構成。

これら八七基のうち四五件四九基が世界遺産に認定された。

↓ ただ農地・宅地開発で元あった大型古墳の三分の二が消滅、盗掘で多くの遺物も失われている。勧告に示されたように古墳群の「顕著な普遍的価値」が失われないように保存するとともに、地域社会と共生し、その活性化につながる活動が求められている。

◆「天皇陵の治定」は考古学との整合性がとれていない。

↓ 考古学の編年と比べると、天皇の年代や続柄が合わないものがあり、これは八世紀の律令（諸陵司）や一〇世紀の延喜諸陵式時代からの誤りといえる。例として継体陵（太田茶臼山古墳）五世紀中頃と今城塚古墳六世紀、百舌鳥の三御陵など・・・そうした経緯から、登録IDでは御陵名でなく古墳名で記されている。

◇世界遺産に登録された理由と経緯

「百舌鳥・古市古墳」は、堺市・羽曳野市、藤井寺市にまたがる四世紀後半から五世紀後半に築造された四五件四九基の古墳群をいう。

① どうして認定されたか、記載の可否と評価基準

評価基準 四五件の構成資産はこの時代の社会政治的構造、社会的階層差および高度に洗練された葬送体系を証明している。

評価基準 古代東アジアの墳墓築造のひとつの顕著な類型を示すものである。古墳、およびその有形の属性である土像、濠、幾何学的な段築をもち、石で補強した墳丘は、この歴史的に重要な時代における社会階層の形成のうえで顕著な役割を果たしたものである。

② 認定に際して「追加的勧告」が出された 勧告の順守 内容省略 登録理由となった要素が失われたと判断された資産がリストから抹消されることもある。

◆古墳と陵墓 ① 多種多様な古墳・陵墓

(1) 「古墳」三世紀後半から七世紀前半に築造された墳丘を持つ古い墓の総称。全国の総数一五九六三六基、一位兵庫一八八五一基、二位鳥取一三四八六基、三位京都・・・八位奈良九七〇〇基・・・一三位大阪三四二七基↓ 数から見れば大阪・奈良は特に多いとは言えないが大規模古墳が集中している。(天皇陵以上に大きな古墳も多数存在)

(2) 古墳と石棺・石室の形状。古墳には円墳 前方後円墳 帆立形古墳方墳 他には八角墳 双円墳・・・があります。石室には竪穴・横穴式があり、石棺も箱型 長持型 家形 割竹形等がある。

◆古墳と陵墓 ② 「陵墓とは」

天皇、皇后、太皇太后及び皇太后を葬る所が陵(みささぎ・りょう)、皇太子・親王等の皇族を葬る所が墓で宮内庁が管理(皇室典範一八八

九年～一九四七年第二七条)。分骨所・火葬塚・灰塚などに準じるものの、髪・歯・爪などを納めた髪齒爪塔などの**供養塔**、古代の殯(もがり 古代の葬儀儀礼)の地である斂地(ひんれんち 皇室の墳墓で宮内庁が管理するもの)、被葬者を確定できないが皇族の墓所の可能性が考えられる**陵墓参考地**などを総称して陵墓という。現在宮内庁が管理する陵・墓・陵墓参考地は山形県から鹿児島県まで458か所896基。

◆大阪の巨大古墳 ① 大仙陵古墳(百舌鳥耳原中陵・伝仁徳天皇陵)

古墳最大長八四〇m 最大幅 六五六m 墳丘長五二五m 墳丘基底部の面積 一〇三四一〇㎡、日本最大の古墳で、エジプトのピラミッド、中国の秦始皇陵と共に世界三大墳墓の一つに数えられるほか、北側の**伝反正天皇**、南側の**伝履中天皇陵**と合わせて**百舌鳥三陵**と呼ばれている。前方部と後円部に長持形石棺を納めた竪穴式石槨がある。

明治五年に発見された前方部の石槨では副葬品として金銅装の甲冑などが確認されており、この甲冑を描いた図は堺市指定有形文化財となっている。大仙陵古墳では、古くから(明治五年発掘)複数埋葬が確認され、**天皇治定の危うさ**もあり、近年は**有力豪族の一族多数が埋葬されている**のではないかと推定されている。

◆大阪の巨大古墳 ② 誉田御廟山古墳(伝心神天皇陵)

古市古墳群最大の前方後円墳で、墳丘長四二五m、後円部直径二五〇m、高さ三五m、前方部幅三〇〇m、高さ三六mで百舌鳥古市古墳群の仁徳陵古墳に次いで二番目に大きい。五世紀前半頃の築造でテラスと呼ばれる平坦な部分には推定二万本に及ぶ円筒埴輪が立てられ

ていたと考えられている。出土遺物には、埴輪や盾・靱（ゆぎ）・家・水鳥などの形象埴輪の他に、蓋形の木製品やクジラ・タコなどの土製品がある。

◆世界文化遺産百舌鳥・古市古墳群の問題と課題

①「保存と活用の両立に大きな課題が」

世界遺産条例履行のための作業指針 登録時の状態が、将来にわたって維持、強化されるように担保すること。

- (1) 立法措置、規制措置、契約による保護措置
- (2) 効果的な保護のための境界線の設定
- (3) 資産を適切に保全するために必要な場合は、適切に 緩衝地（バッファゾーン）を設定すること。
- (4) 適切な管理計画の策定又は管理体制の設置を行うこと。（略）

必要な（人的、財政的）資源が割り当てられていること。

- (5) 世界遺産は、生物的、文化的に持続可能な様々な利用と両立し得ること。

◆世界文化遺産百舌鳥・古市古墳群の問題と課題

② 緩衝地帯等の保全措置と市民の権利制限

百舌鳥・古市地域で古墳からおおむね一〇〇m以内の隣接地域では、建物の高さを一五m以下とし、緩衝地帯の範囲内では、建物の高さを三m以下（商業地域は四五m以下）に制限。外観も、鮮やかな色合いを禁止。看板などの屋外広告物は原則禁止。

◆世界文化遺産百舌鳥・古市古墳群の問題と課題

③ 世界遺産から外れた古墳と追加的勧告対応

- (1) 世界遺産から外された古墳 四世紀後半から五世紀後半にかけて築造されたもの以外は認定外 伝仁賢陵（野中ボケ山古墳）前方後円墳一二二m 六世紀前半、伝安閑陵（高屋築山古墳）前方後円墳一二二m 六世紀前半以下省略

- (2) 被葬者不明の巨大古墳 （天皇ではないとされる天皇に匹敵する有力者の墓）をどう扱うか？

例えば 岡山市 造山古墳 五世紀前半 三六〇m 被葬者不明、羽曳野市 河内大塚山古墳 六世紀後半 三三五m被葬者不明以下省略、

◆世界文化遺産百舌鳥・古市古墳群の問題と課題

④ 史跡百舌鳥古墳群のガイダンス施設整備 （略）

「天皇陵治定」はこのままでいいのか

太田茶臼山古墳五世紀中頃と今城塚古墳六世紀

年代的に「継体陵」とされるが、「宮内庁が天皇陵に治定していない今城塚古墳」は高槻市が五〇年かけ公有化し整備して、市民が自由に立ち入れるほか、埴輪祭祀の場も復元され、博物館の「今城塚古代博物館」も整備され、市民に活用されている。一方継体陵（三嶋藍野陵）に治定される太田茶臼山古墳は市民から切り離されている。古墳はすべて貴重な国民が共有すべき歴史資産・財産だから、保全・活用のためにも天皇陵の見直し・規制緩和・自治体への権限移譲などが求められている。

◆今後の取り組み 百舌鳥古墳群の保全・整備・管理と活用

百舌鳥古墳群における古墳の整備・管理と活用

百舌鳥古墳群一〇五基の内既に六一基が消滅。残る四四基も破損が進む

- (1) 保存上の緊急課題に対応
- (2) 整備条件が整う（公有化の進展調査成果の備蓄、周辺の状況変化）
- (3) 整備効果が高い（価値の理解促進）つまりその原資、計画的な予算の手当が重要。

◆、世界文化遺産を地域に生かす 登録の経済効果

遺産登録でビジターの経済波及効果（堺都市政策研究所）

大阪府 約一〇〇五億八四〇〇万円 粗付加価値創出は約五八五億一〇〇万円

堺市 約三三八億三九〇〇万円 粗付加価値創出は約一五七億一〇〇万円

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」三九億四〇〇〇万〜一〇〇億九〇〇〇万円

「富岡製糸場と絹産業遺産群」三四億円、「富士山」六一億円

来阪外国人による消費は一兆二〇〇〇億であることを考えると「古墳」だけでアピールするのではなく「都市魅力・観光魅力の一環」として位置付けていくことが重要。

魅力はすぐ薄れる

石見銀山 二〇〇八年八〇万人 ↓ 二〇一六年は約三〇万人
 姫路城 一九九二年八八万人 ↓ 指定された一九九三年一〇一万人、二〇一五年大修理後二八六万人、二〇一六年二二一万人
 平泉町 二〇一二年二六四万人 ↓ 二〇一五年一九三万人



中央が正木氏

どのような人々にどのようにアピールしていくか

- (1) 外国人に魅力があるか
 - (2) 歴史、古墳ファンはどのくらいか
 - (3) 学術の魅力はどうか 十分な市場調査が重要。以下省略
- 三 おわりに

コロナ感染拡大八波の始まりか？の中で行われたセミナー、多数の方に参加していただきました。考古学から見たものだけでなく行政の立場からの文化遺産の保存・活用、問題と課題の提起、日常あまり知り得ない、見ない面からのセミナーでした。

会員の原稿を

募集します！

福島区の記録を残しましょう

総目次（創刊号（第十五号））

創刊号 二〇一三年一〇月

発刊に寄せて・・・・・・・・・・会長 太田勝義
 区の花「のだふじ」が選ばれるまで・・太田勝義
 〈戦争の記憶〉 学童疎開と空襲体験・・橋 昇
 上半期の事業・上半期の活動記録

第二号 二〇一四年二月

「立川文庫」と中江町・・・・・・・・津山泰裕・
 下福島公園の今昔・・・・・・・・岡倉光男
 区民まつり初参加・・・・・・・・末廣 訂
 吉野小学校「子供お楽しみ会」に協力して
 ・・武田 博
 下半期の事業・下半期の活動記録

第三号 二〇一四年一〇月

松下幸之助翁生誕百二十年と創業
 の地碑建立十周年を記念して・末廣 訂
 〈戦争の記憶〉
 七十年前・・・・・・・・福原佐一郎
 メモ1 福島区の学童疎開
 メモ2 疎開の経緯
 学童疎開と学徒動員・・・・・・・・矢野とも子
 孟蘭盆会覚え書き―玉江橋の精霊流し―

「松瀬青々」ゆかりの地を巡る・・田野 登
 展示「池田遊子の世界」開催・・末廣 訂
 上半期の事業・上半期の活動記録

第四号 二〇一五年二月

阪神・淡路大震災―二十年前の事―・・太田勝義
 福島区内の旧蔵屋敷について・・岡倉光男

福島区の建築物1

塩野義製菓中央研究所・・山口達也
 塩野義製菓中央研究所と大日本製菓
 海老江工場の見学会・・末廣 訂
 『ふれあい祭り』ミニパネル展示
 ・・森本棟夫・荻田善彦

松下幸之助翁生誕百二十年記念講演会
 ・・末廣 訂
 下半期の事業・下半期の活動記録

第五号 二〇一五年九月

〈戦後七〇年〉
 疎開先で聞いた終戦の玉音放送・・岡倉光男
 開戦から大空襲まで―大阪の生鮮
 食料品の流通実態―・・酒井亮介
 The あゝの頃―ジェーン台風の写真―武田 博
 六十五年前の大台風―福島区に大被害―
 ・・太田勝義
 鷺洲に美津濃大阪工場があったころ・・水谷浩一
 創造と享受―平成二十七年第一回
 セミナー報告―・・鳥山忠昭

上半期の事業・上半期の活動記録

第六号 二〇一六年二月

福澤諭吉記念室 誕生秘話・・太田勝義
 戦争の証―町会に残っていた
 「大日本婦人会」関係資料―・・荻田善彦
 発掘で見つかった「堂島窯」・・岡倉光男
 街区「ほたるまち」愛称名雑感・・岡倉光男
 終戦七〇年記念講演を聴いて・・田野 登

戦国時代 野田福島の合戦―平成二十七年度

第二回セミナー報告・・鳥山忠昭
 二〇一五年の活動報告・・末廣 訂
 下半期の事業・下半期の活動記録

第七号 二〇一六年九月

〈災害の記憶〉
 第二室戸台風―あれから五十五年―
 ・・会員有志

「藤野田」碑の新発見？・・宮本隆正
 福島消防署・警察署の竣工と区民センター・
 図書館完成への苦労あれこれ・・太田勝義
 古代史が語る「天王寺と四天王寺の真実」
 ―平成二八年第一回セミナー報告―
 ・・西田修造

泣きながら 笑える女に 誰がした
 ―平成二八年第二回セミナー報告―
 ・・大平幸子
 上半期の事業・上半期の活動記録

第八号 二〇一七年二月

「五百羅漢」って、どこに？・・森本棟夫
 歴史探訪 尼崎・道意新田の
 開発者の墓発見！・・末廣 訂
 山錦関とはどんな力士？―豪栄道初Vで注目
 された鷺洲町出身力士―・・末廣 訂
 福島区役所の変遷と劇的なドラマ・・太田勝義
 NHK・TV「探検・バクモン」の取材と
 年末放映について・・末廣 訂
 「戦争体験を語りつぐ」講演と語る会
 を聴いて・・田野 登

三好長慶と幻の野田城

―郷土史講演とまち案内 報告―・服部静尚
真田幸村と大阪の陣―平成二八年

第三回セミナー報告―・水谷浩一
下半期の事業・下半期の活動記録

第九号 二〇一七年九月

《遺稿》天下の台所・大阪市中央卸売市場

の生い立ちと経過―・太田勝義
《追悼特集・太田会長》

故・太田会長を悼む！・岡倉光男
太田会長の思い出・末廣 訂
父、太田勝義は大阪市と福島区が大好き

・太田晶也
福島区のインフラの充実に貢献した

故太田勝義先生・藤 三郎

太田会長を悼む・宮本隆正

太田会長の思い出・大平雄喜・幸子

太田勝義略年譜

野田地区の長屋現状と民俗点描・岡倉光男

写真で巡る野田村―平成二九年第一回

セミナー報告―・宮本隆正

「二〇一七戦争体験を語りつぐ」

―講演と語る会の報告―・西 保國

上半期の事業・上半期の活動記録

第十号 二〇一八年二月

藤の棚の歌人・矢澤孝子・藤 三郎
わが町案内・末廣 訂

阪神電車初代社長・外山脩造―一〇〇年を

経て今に引き継がれるDNA平成

二九年第二回セミナー報告―・末廣 訂

関に護られた都・難波宮―平成二九年

第三回セミナー報告―・林 俊二

下半期の事業・下半期の活動記録

第十一号 二〇一八年九月

会長に就任して・末廣 訂

福島区内の「長屋」についての所見と現状

長屋戸（軒）数調査・岡倉光男

パナソニックの新ミュージアム

見学記・末廣 訂

国道二号淀川大橋改修工事の見学と

海老江の歴史・末廣 訂

浦江マチ歩きの栞―平成三〇年第一回

セミナー報告―・西 保國

野田福島の戦いとその意義―平成三〇年

第二回セミナー報告―・服部静尚

福島区歴史研究会 会則

福島区歴史研究会 役員名簿

上半期の事業・上半期の活動記録

第十二号 二〇一九年二月

消えた鷺洲二之橋―淀川左岸線工事

と最近の風景・末廣 訂

大正六年「東京倉庫」の大爆発

―附・枚方市陸軍禁野弾薬庫爆発―

・岡倉光男

石畳が敷かれた長屋の物語・末廣 訂

福島区の近代から古代まで・服部静尚

福島まち歩きガイドブック作成の記録

・大垣禎秀・荻田善彦・森本棟夫

福島地区「ふれあい祭り」

ミニパネル展・荻田善彦

淀川大橋改修工事第二回見学会

―大阪大空襲の銃弾痕を見る―林 俊二

下半期の事業・下半期の活動記録

第十三号 二〇二〇年二月

《追悼》

酒井亮介氏を悼む・宮本隆正

西田修造君逝く・服部静尚

惜別・福原佐一郎さん・藤 三郎

田辺聖子さん逝く・西村美紀子

おもな栄典歴など

おもな受賞歴・略年譜

軍国少女の生きた福島界限―田辺聖子

『私の大阪八景』を読む―・田野 登

通称「新堀」地区の変遷・岡倉光男

大阪歴史博物館に婦人会史料の寄託

・荻田善彦

令和の新紙幣発表とテレビ局取材の対応

―福沢諭吉からノダフジへ―・末廣 訂

鷺洲にかかつていた橋の親柱石碑

・水谷浩一

戦争と子供たち

―小学生に語り継ぐ―・末廣 訂

福島地区歴史まち歩き案内

・大垣禎秀・荻田善彦・森本棟夫

新尼崎城と寺町の散策・・・・・・・・・・澤田耕作
フレンジー・クラブまちあるき案内記

「福島まち歩き」案内・・・・・・・・・・宮本隆正
三好長慶と一族の足跡を辿る

―史跡巡り報告―・・・・・・・・森畑通夫
講演会「松下幸之助に学ぶ」・・・・多田一夫
堀田道甫とその娘―近世大坂と三次

〔備後国〕における人物交流史二〇一九年
第一回セミナー報告・・・・・・・・服部静尚
2019年の事業・活動記録

第十四号 二〇二一年三月

「追悼」林一良さんを偲んで・・・・・・・・末廣 訂

「新型コロナウイルスの二〇二〇年」
感染症の歴史抄と私の体験・随感

・・・・・・・・岡倉光男
新型コロナウイルスで経験したこと

・・・・・・・・末廣 訂
コロナ下の福島区の花・ノダフジ

・・・・・・・・藤 三郎
コロナ禍での自粛生活・・・・・・・・宮本隆正
鷺洲にかかつていた橋の親柱石碑 2

・・・・・・・・水谷浩一
浪花ふくしま「男塾」まち歩き

「海老江・鷺洲コース」案内・・・・大垣禎秀
歌舞伎入門講座 世界に誇る歌舞伎の

素晴らしさ―二〇一九年第二回
セミナー報告・・・・・・・・大垣禎秀

大阪を襲う南海地震と津波―二〇一九年

第三回セミナー報告・・・・・・・・森本棟夫
2020年の事業・活動記録

第十五号 二〇二二年三月

田辺聖子「日記」文中の「欠伸男」の
顛末―自伝風小説の陥穽・・・・・・・・田野 登
近傍の「往事点描」・・・・・・・・岡倉光男

「新型コロナウイルスの二〇二一年」
二年目のコロナ禍で経験したこと

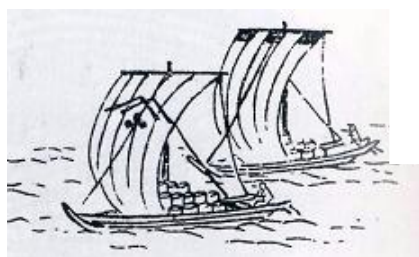
・・・・・・・・末廣 訂
ノダフジに関わる新刊紹介・・・・・・・・藤 三郎
『フジ―総合ガイド―』藤 三郎著

『藤と日本人―藤の文化誌―』有岡利幸著
『村野藤吾と俵田明』堀 雅昭著

尼崎城と城の東側大物周辺の散策・澤田耕作
堺幕府と野田城―文献にみる野田・福島・

中嶋二〇二一年第一回セミナー報告―

・・・・・・・・森畑通夫
2021年の事業・活動記録



〈トピック②〉

堀江謙一さん、84歳で太平洋横断

海老江西小学校・八阪中学校出身の堀江謙一さん（1938～）が「SUNTORYマーメイド3号」で3月27日、ゴールデン・ゲート・ブリッジ（米国）下から出港、6月4日、日ノ御崎沖（紀伊水道）に到着、二度目の単独無寄港太平洋横断を成功させました。

堀江さんは、1962年5月に西宮から「マーメイド号」で出港、8月12日にサンフランシスコ入港、小型ヨット単独無寄港太平洋横断航海に成功しました。翌年には第11回菊池寛賞を授賞。その後も海洋冒険家として数々の挑戦をしてきました。二〇〇九年「植村直己冒険賞 特別賞」、2011年「内閣総理大臣賞」も贈られています。

2022年の事業

『福島区歴史研究会会報 第15号』発行 3月

展示「区の花 のだふじの今昔」2021.11.5～6.30 会場・福島区役所

展示「福島区ゆかりの文学者」3.22～6.30 会場・福島図書館

セミナー 「浪花百景」－絵解き！謎解き？－5.29 講師：湯川敏男氏

会場・福島区民センター

展示「福島区ゆかりの文学者」7.19～2023.3.31 会場・福島区役所

展示「地図に見る福島区」7.15～10.19 会場・福島図書館

セミナー「歴史資産を地域に活かす」－生活文化遺産と百舌鳥古市古墳群－ 11.27

講師・正木 裕氏 会場・福島区役所

2022年の活動記録

1.20 役員会

3.17 総会・企画会議

3.22 展示作業（図書館）

4.5 鷺洲小学校の親柱説明版設置

4.15 見学会（鷺洲小学校）親柱説明プレート完成見学会

4.21 企画会議

5.19 企画会議

5.25 見学会（田辺聖子ゆかりの福島地区）記念部会3名で、高大から分派した
北摂の部会を案内

6.16 企画会議

7.8 展示替え（図書館）

7.15 展示替え（区役所）

7.21 企画会議

9.15 企画会議

10.5 見学会（解体前のメリヤス会館）

10.20 展示撤去（図書館） 企画会議

10.20 企画会議

10.27 町歩き（神戸市兵庫区大輪田の泊）

11.12 見学会（ふくしま魅力探検町歩き）海老江・鷺洲地区

11.14 見学会（田辺聖子文学館）

11.17 企画会議

11.23 福島地区ふれあい祭り（福島小学校）

12.15 企画会議

その他 野田村ガイドブック作成委員会・鷺洲村ガイドブック作成委員会などの活動
浦江塾〔協力〕 6.4 7.2 9.3 10.1 11.5 12.3

ホームページ <http://o-fukushima.com/rekishi/top.htm>

（会報バックナンバーも掲載）

（印刷：谷口印刷紙業）